16
-中・西部-

大道（だいどう） 竜士（りゅうじ）

工房「草衣 so-i」代表

応募のきっかけは？

2014年頃から移住を考え、その当時は浴衣や手ぬぐいを染める注染職人として働いていましたが、自分たち夫婦のモノづくりの理想として、「なるべくゼロの地点から形作っていく」ということがありました。服を作るなら生地から、生地を作るなら糸から、染料を使うなら山や畑からのものを使う。全てが理想の通りにできるかどうかは分かりませんでしたが、その環境を得るには都会では難しく、地方に希望があると思いました。子どもは生まれたばかりで、子育て環境にも地方は適していると思い、協力隊への応募を決めました。

どんな活動をしたいと思っていましたか？

染織工房の設立と農業の技術を習得したいと思っていました。また、活動地の空き家や耕作放棄地を利用し、再生するような活動ができればとも思いました。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

海や山が近く、畑があって夜も暗い。静かで気候も良く、とても良いところでした。ここでなら豊かな暮らしが築けるのではと思いました。

隊員時代の思い出を教えてください

全国の様々な工房へ視察に行きました。多くのことを学び、現在でも助言をいただける関係を築くことができました。

大変だったことは？

卒業後の仕事や生活について、任期中にしっかりと計画を立てていくことはとても難しかったです。技術の習得や工房設立の準備、畑の管理などのたくさんのミッションをしながら、協力隊の様々なルールの中で卒業後を考えていくということはとても大変でした。金銭的な部分での負担も覚悟が必要でした。

▼隊員時代：ソーシャルビジネスコンテストの授賞式

▼藍

▼藍の畑

活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

地域の方々です。移住後7年が経過しましたが、温かく迎え入れていただき、家族みんなが多くのことで助けられています。子どもたちは、地域に馴染み、とても嬉しく思っています。

現在、そしてこれからについて

卒業と同時に、工房「草衣 so-i」を設立して4年が経ちました。工房での制作、ギャラリーや百貨店での展示会、大学での講師など染織に関わることを仕事にしています。また、自分の畑を持ち、藍や綿、自家用の野菜などを育て、この土地だからこそできる暮らしを営んでいます。現在の仕事を「家業」として、土地に根を張って暮らしていきたいと思っています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

卒業後も定住することを勧めます。地域のことや自分の暮らし、卒業後に見えてくることがたくさんあると思います。普段の生活では関わりのない様々な人との出会いも楽しめるようになると思います。

工房「草衣so-i」にて▲

大道（だいどう） 竜士（りゅうじ）さん

協力隊として

| 着　任　地 | 防府市
| 活動期間 | 2015年9月～2018年9月
| 活動内容 | 藍の栽培・藍製品の商品開発、販路拡大

現在の仕事

工房「草衣so-i」代表
| インスタグラム |
https://www.instagram.com/so_._i

藍染作業中

大道さんのあゆみ

- 2015.09 協力隊着任
- 2015.11 徳島県での研修
- 藍染の原料「蓼」の初仕込み
- 2016.03 藍の栽培開始
- 2017.08 山口県ぶちええソーシャルビジネスプランコンテストグランプリ受賞
- 2018.01 工房の改装開始
- 2018.09 協力隊卒業
- 工房「草衣so-i」オープン